

[dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siegf : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 49 août 1999 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

'99総会 新会長に矢谷隆一氏(三重大学長)を選出

記念講演会、「パリ祭」も盛会

三重日仏協会 1999年度総会は7月11日(日)津市のプラザ洞津で開催され、'98年度の事業・会計報告、役員選出、'99年度の事業・会計計画を理事会原案通り決定いたしました。役員選出では、7年間ご苦勞をおかけした武村泰男前会長退任のあとを受けて、新会長に三重大学学長(医学部・病理学)の矢谷隆一氏が選任されました。就任のあいさつで矢谷会長は、パリ第6大学との提携や、風力発電の研究など、三重大学を中心としたフランスとの今後の協力態勢の強化について抱負を述べられました。

総会に引き続いて、大阪大学・柏木隆雄教授による記念講演会(P.2に詳報)と、恒例の〈キャトルズ・ジュイエ〉のパーティーが開かれ、それぞれ60人を超える参加者で盛会となりました。フランス人のお客様もダメモ先生、ドミニク・ドゥーセ一家のほか、現在企業研修で四日市に滞在中のダウイド君、アリアーヌさん、エロディさんの若者たちが参加、楽しく交流を深めました。

新役員(任期2年)は下記の方々です。

- 会長 矢谷隆一(新)
- 副会長 井土真杉(事務局長)
- 専務理事 藤田謹司(再)
- 常務理事 青木俊作(再)
- 理事 尼子マリリン・ロイド(再)
- 伊藤達雄(再)
- 武村洋子(再)
- ジャン＝フランソワ・ダメモ(再)
- 豊田元子(監事)
- 疋田敬志(再)
- 事務局長 滝沢秀行(新)
- 監事 山中利之(理事)



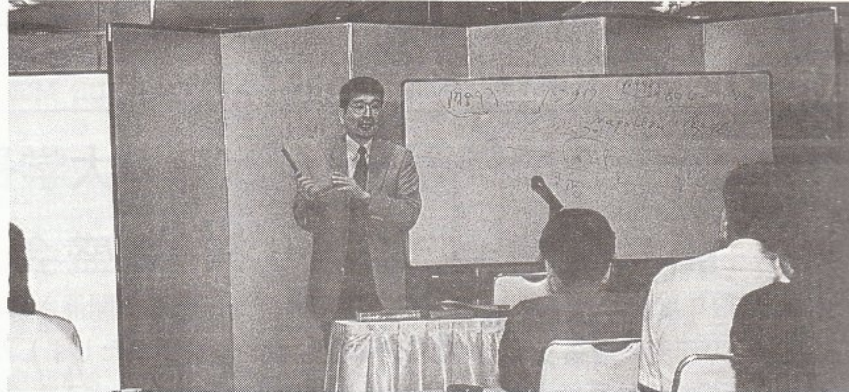
あいさつする矢谷新会長

武村泰男前会長は顧問に推挙されました。(新運営委員はP.4に)

バルザックの面白さ——まなざしを読む

柏木隆雄氏の講演に70名が感銘

今年の総会記念講演会は、フランス近代文学の巨人・オノレ・ド・バルザックの生誕200年に当たることから、バルザックの研究者として名高い大阪大学教授・柏木隆雄氏（松阪市出身）をお迎えして一般公開で開催しました。50数席用意された会場は定刻にはいっぱいとなり、補助椅子を追加して並べるという盛況でした。



柏木氏はさる6月、フランス（パリ・リュクサンブール宮など）のバルザック学会で発表されたばかりの研究報告内容を柱にして、彼の破天荒な生涯と、一般にはあまり知られていない中期の短編小説『ファチーノ・カーネ』についての独創的で興味深い分析を、わかりやすく熱をこめて話されました。また、講演のなかで、バルザックが本格的な作家生活にはいる以前に次々に関わって失敗したジャーナリズム、出版業、印刷業、活字鋳造業などにゆかりの当時（19世紀前半）の貴重な書籍や全集本など10冊ほどを参加者に自由に閲覧させてくださいました。

以下、当日の聴衆のなかから会員以外の方に感想をうかがいました。

- バルザックとは長いこと疎遠にしていたのですが、今日のお話で、破産やら借金やら不倫やら、その辺りのオジさんのような気がして身近に感じられた。また200年近くも昔の珍本を気前よく触らせていただいたのにはドキドキしました。
- バルザックは読んだことがなかったのですが、先日ユゴー、デュマといっしょに取り上げられている『パリの巨人たち』（鹿島茂著）という本を読んで大いに興味をもっていたところへ、今日の講演会のことを新聞で知り、聞きに来ました。より理解が深まりました。私は美術が好きなので古いフランスの本の挿し絵が実におもしろかった。
- ゆうべは久しぶりにバルザックの『ウージェニー・グランデ』を読み直して、勇んでやってきました。お話の後半（『ファチーノ・カーネ』について）には、遊戯的なおもしろさがありました。私は歴史に興味があるので、もしまた機会があればバルザックと当時のフランス社会との関わりなどについて話をうかがいたいものです。

なお、当日の講演を収録したカセットテープがありますので、お聞きになりたい方は事務局までどうぞ。

BALZAC を読みませんか!

今年が生誕200年、また来年は没後150年を迎えるバルザックをしのんで、本会のメンバーでもフランス語の勉強をかねて彼の作品を読んでみようという計画がすすんでいます。まず取り上げる作品は、柏木先生のお話の中心となった〈FACINO CANE〉『ファチーノ・カーネ』(20ページ程度の短編)です。9月初めから津市内でウィークデイ、月1回のペースを予定。詳細お問い合わせは、菅谷(すげのや)さん059-223-2690まで。

「全国日仏協会の集い・広島日仏協会創立50周年」に参加して

滝沢秀行 (事務局長)

だいたい年一回のペースで開かれている「全国日仏協会の集い」が、本年は広島で開催され、今回初めて参加してきました。

梅雨の真っ只中の6月18日、広島は街も終日雨の日でしたが、「集い」開催地の広島日仏協会が創立50周年を迎えるということで記念のシンポジウム、講演会、パーティーととても盛大でした。



広島からは明治初年よりフランス留学生として数名の者が訪仏していること、また「義和団事件」(1900年)の関連で、当時軍港のあった広島へフランス軍が負傷者の治療のために寄港、それらのうち命を落とした7名の墓地が100年を経たいまでも日仏のかけ橋となっていることを知り、感銘を受けました。

祝賀パーティーにはグルド＝モンターニュ駐日フランス大使、ナウム総領事をはじめ、広島県知事も来賓として出席、総勢250名ほどの盛大なものでした。

“南仏の秋を楽しむ……日仏友好の旅”

三重日仏協会主催による友好親善のフランス旅行を企画しました。

概要としては、(一部変更もありえますが)10月14日(木)~21日(木)の6泊8日で、訪問先は、ここ数年来さまざまな形で本会と親交のある人々の地：マルセイユ、リヨン、ディジョンを友好訪問する予定です。

費用は22万円~23万円をいどで、10~15名の参加者を募っております。会員以外の方の参加も歓迎です。

お問い合わせ、お申込みは滝沢(059-225-2517)まで。

SOPEXA ワイン・リスト・コンクールで小森さんが入賞

フランス食品振興会 (SOPEXA) 主催によるブルゴーニュ・ワイン・リスト・コンクールに挑戦した小森明さん (津市で〈ビストロ VIN - VINO - WINE〉を経営、本会会員) が、全国 150 店以上が参加するというきびしい競争のなかで、みごと入賞 (最優秀 2 店に次ぐ) を果たし、6 月 29 日東京の高輪プリンス・ホテルで受賞しました。SOPEXA はフランス政府の肝いりでフランスの食品を世界に普及するため活動している権威ある団体。全国のレストランなどを対象に、いかににすぐれたセンスの料理とワインをお客に提供しているかを、提出されたリストによって審査するという珍しいコンクールです。

短 信

会員・西山源継さんより

娘がパリに住んでおりますが、その親友の兄さん Etienne AUBERT が近く来日、伊勢市の我が家に一ヶ月ほど滞在する予定です。この間フランス語のレッスンをして見たいと言っていますので、もしご希望の方がありましたら、気楽な気持ちでご一報ください。当人ジャズが大好きで、できればどこかでライブをやりたいとも言っています。

(問い合わせ・連絡先) 伊勢市神久 1 - 4 - 11 西山 ☎ FAX0596 - 28 - 7629

9/17 針谷宏弥 (ピアノ) + 針谷斐子 (ソプラノ) ジョイントリサイタル フランス近代サロンと劇場の音楽をたずねて

9月17日 (金) pm.7 時開演 津リージョンプラザお城ホール

入場券 (全自由席) 一般 3,000 円 学生 2,000 円

演奏曲目 (ピアノ) 「舟歌」4 曲ほか、すべてフォーレ作品

(ソプラノ) ドビュッシー：歌曲集「忘れられし小唄」全 6 曲ほか 本会后援事業

新運営委員の皆さん

三重日仏協会のすべての事業で実際に運営にたずさわり、また日常は縁の下の力持ちとして事務局で活動していただいているのがスタッフ (運営委員) の皆さんですが、今年も下記の方々をお願いします。

浦口 奈雅子 大野 登美子 大原 里歩 菅谷 光美 武田 治美

長田 康二 平井 由美子 横山 秀明 米沢 みゆき

(事務局長) 滝沢 秀行

もっとスタッフを強化したい現状です。得意の分野、ご都合のいい地域での活動 (現在のメンバーはほとんど津市) でもけっこうです。ふるってご参加ください。